九州外国語学院（福岡校）

2020 年度 自己点検・自己評価 【評価シート】

2021 年 6 月 25 日作成

５：達成している　４：ほぼ達成している　３：どちらともいえない　２：取り組みを検討中　１：改善が必要

（1）教育の理念・目標		評価
1	（1）1　理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	（1）2　学校の特色は何か	5
3	（1）3　学校の将来構想を抱いているか	4
4	（1）4　理念に基づく教育が行われているか	5

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

日本のレベルの高い大学院・大学、専門学校への進学を通じ、留学生への高等教育の提供に資するという当校の理念・目的・育成人材像は、教職員間で共有されている。

学校の特色は、まさに進学実績の数値が示すとおりである。2018 年度に旧七帝大合格者 500 名、九州大学合格者 300 名を達成して以降も、前述の大学を含め、順調に多くの合格者を輩出してきた。学校の特色は、より明確に、そして定着しつつあると言える。

昨年来のコロナ禍においても当校の理念は着実に教職員に浸透し、実際の教育現場においても緻密な進学指導という形で実践されている。教務内部での進学に関する各種会議はもちろん、事務局とも連携し、学校を挙げて進学指導に当たっており、学校理念に基づく教育は継続されているといえる。

（2）学校運営		評価
5	（2）1　運営方針は定められているか	4
6	（2）2　事業計画は定められているか	4
7	（2）3　運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	3
8	（2）4　人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	3
9	（2）5　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
10	（2）6　学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	3
11	（2）7　危機管理体制は整備されているか	2
12	（2）8　施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	4

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

運営方針は経験値に負うところが多く、明文化が課題である。

運営組織や意思決定機能は、教学内または事務局内においては一定に機能しているものの、経営層を含めた学校全体のガバナンスや横の連携という点では課題も多く、効率的になっているとは言い難い。今後の改善が課題であることにかわりない。

人事や待遇、職場改善については一定に改善は進めつつあるものの、教職員の育成についてはコロナ禍において喫緊の課題である。また制度的な担保がなされているとは言い難い状況であり、今後の改善課題である。情報システム化については、独自システム（にほんごくん）を長年にわたり、開発・運用しているが、開発・運用が個人の力量に依存しているため安定化に向けては課題を残している。

学校運営についての客観評価（第三者評価等）については今後の検討課題である。

2020 年度は、新型コロナウィルスの感染拡大により、学校運営が最大の危機を迎えた。しかし、関係各省庁の見解や助言をもとに、学生・教職員の感染防止を最優先に、取り得る限りの対応を取っている。ただ、危機管理体制の制度化、明文化という点では整備できていないのが実情で今後の改善課題である。

施設・設備は、学校教育法の基準に準じた告示基準に合致している。老朽化した設備等の整備を順次進めていくか課題は残る。

（3）財務	評価
13（3）1　中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4
14（3）2　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
15（3）3　財務について会計監査が適正に行われているか	5
16（3）4　財務情報公開の体制整備はできているか	3

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

新型コロナウィルス感染症の影響で応募が困難なうえ、入国制限が続いているため入学辞退も続出し学生数が伸びず、学校経営を圧迫している。こうした中、雇用調整助成金、持続化給付金、提携金融機関による緊急融資などを使い財務的には何とか持ち堪えている状況である。コロナ禍が落ち着き、入国制限が緩和されるまで、我慢するしかないだろう。

予算・収支計画については、設置会社において策定・運用しており、またグループ全体として連結運用しているため、有効性・妥当性の評価は難しく、どちらとも言えない。

会計監査については、上場企業等に求められる基準には至らないまでも、関与税理士による年間ならびに半期での決算処理時点での監査に関与していただいている。

会計監査については、上場企業等に求められる基準には至らないまでも、関与税理士による年間ならびに半期での決算処理時点での監査に関与していただいている。

財務情報公開については、引き続き今後の検討課題である。

（4）法令遵守	評価
17（4）1　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
18（4）2　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
19（4）3　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
20（4）4　自己点検・自己評価結果を公開しているか	3
21（4）5　関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

法令、設置基準等の遵守に努め、入国管理局にも確認しながら適正な運営に努めている。特に、学校内におけるハラスメント防止に向け、全職員に対する周知・啓発に努めている。学校内 LAN はファイヤーウォールの機器を設置しサーバーデータの外部への流出を防ぐとともに、教職員の就任にあたっては個人情報保護に関する誓約書の提出を義務付けている。

入国管理局をはじめ関係省庁への定期報告、随時報告については、遅延なき報告に努めている。

（5）教職員	評価
22（5）1　教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
23（5）2　教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4
24（5）3　教職員評価を行っているか	3

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

進学コースを持つ学校として、教育理念、目的、そして特色ある方針を明確に掲げ、教職員間においてそれらは十分に浸透していると言える。進学実績がそれを如実に物語っていると言える。コロナ禍においても、教育理念・目的は堅持し、進学実績も例年に比べ遜色のないものとなった。

教員の質向上について、新任の教員に対しては、研修ならびに教案のチェック、授業見学およびフィードバックを行い、指導を行っている。ただ、これまで、進学指導にかかわる教育内容を充実させるべく、毎週一回ミーティングを行い、指導内容・方法の確認、情報の共有を図ってきたが、20 年度はコロナウィルス感染防止のため、ミーティングで教員が一堂に会することができず、やや不徹底に終わった。

教職員評価については、進学を明確な目標とする学校であるため、進学実績や日本語能力試験の合格実績に応じて報償制度を設け、教職員評価を行っている。

（6）地域貢献・社会貢献	評価
25（6）1　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2
26（6）2　学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	2

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

社会貢献、学生のボランティア活動への奨励や支援については、現在新型コロナウィルス感染症の影響で取り組めていない現状であるため、今後いかに改善していくかが課題である。

（7）教育活動	評価
27（7）1　カリキュラムは体系的に編成されているか	5
28（7）2　授業評価の実施・評価体制はあるか	3
29（7）3　目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
30（7）4　成績評価は適切に行われているか	4
31（7）5　各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

カリキュラムについては、開校以来試行錯誤を重ねながら、進学や日本語能力試験合格に向け、各レベルにおいて必要なカリキュラム編成を行っている。

新任の教員に対しては授業見学を行い、評価・改善を行っているが、中堅以上の教員の授業見学や評価は行っていないため、今後の課題である。また、学生を対象に、授業アンケートを取っているが、実施時期や方法が一定していないため、これも今後の課題とする。

進学、日本語能力試験の合格が大きな目標であるため、それに向け、教員の教歴や研究歴などを勘案し、適所に配置している。

成績の評価については、各学期に行う中間・期末試験、日本語能力試験対策としての校内模擬試験、教科書の課毎の試験、授業への参加度、提出物の状況を総合的に判断し、評価を行っている。

日本語能力試験の合格は、大きな目標の一つであるため、過去の試験結果の分析、必要なカリキュラムの編成を行い、指導体制をよりよくするための努力を行っている。

（8）学生支援	評価
32（8）1　進学・進路指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
33（8）2　学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
34（8）3　学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	4
35（8）4　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
36（8）5　保護者と適切に連携しているか	3
37（8）6　卒業生への支援体制はあるか	2

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

進学・進路指導は、当校が最も重視すべきものとして位置付け取り組んでいる。

学生相談に対する体制も、担任・教学サイドと事務局生活指導担当とが連携を取り、取り組んでいる。

保護者への連絡については、問題がある学生への指導の場面で連絡を取り合っている。また学期ごとに、出席ならびに成績の状況（通知表）を斡旋機関を通じて配布したりしているが、一部にとどまっている。

卒業生への支援活動については、今後の検討課題である。

（9）在留管理と生活指導	評価
38（9）1　入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
39（9）2　日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	4
40（9）3　我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	4
41（9）4　常に最新の学生情報を把握しているか	3

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

入国・在留関係の管理・指導、支援については、入国・入学直後の諸手続き、期間更新時の取次ぎをはじめ、事務局学務課を中心に対応に努めている。

日本社会を理解するための支援については、教学部門における授業内外での取り組みと生活指導活動サイドからのアプローチの両面から取り組んでいる。

日本の法律とルールを守ることの重要性については、日本在留にあたりマストの事項として指導に努めている。この点については、繰り返し機会をみて指導していくことが肝要と理解しており、ある種ゴールのない取り組みである。

学生情報の把握では、寮を離れた後の最新の住所、最新の連絡先、最新の同居人、最新のアルバイト勤務先の把握が肝と考え取り組んでいるが、これも終わりのない取り組みである。

（10）入学者の募集と受け入れ	評価
42（10）1　学生の受入方針は定められているか	5
43（10）2　学生募集活動は、適切に行われているか	4
44（10）3　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
45（10）4　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4
46（10）5　適正な定員設定及び在籍者数になっているか	3

<　現状・具体的な取り組み ／ 課題　>

当校は全員直接面接を基本に募集しており、学生受入方針の下、適切な募集活動ならびに教育成果をはじめ留学費用面も含め正確な情報伝達による募集活動に努めている。

入学選考は、母国での学歴と成績、日本語能力をベースとして面接試験によって決定しているが、募集国により教育環境や事前日本語学習環境、経済状況などが異なることから、全ての募集国に対して同等の選考基準とはしていない。この点においては、どちらとも言えない。

しかし、その直後にコロナ禍の影響を受け、2020 年度は新入生の入国ができず、大幅に定員割れを起こす事態となっている。現時点では、この先の状況が見通せないため「3：どちらとも言えない」との評価としている。

総括

2020 年度は、コロナ禍でありながら当校の理念・特色である進学実績は堅調であった。最難関と言える大学にも合格者を出すことができ、進学実績をはじめとする当校の理念や目的を達成するための努力は評価できる。

しかし、コロナ禍の多大な影響を受け、今後の学校運営は見通せないというのも実情である。危機を乗り越えるべく最大限の努力を進めていきたい。コロナ禍において、オンライン授業の体制も整え、対面授業とのバランスもとりながら、教育環境を保持し、学校運営を守ってきたことは、高く評価したい。